

昨日9月21日(水)は「中秋の名月」です！

子どもたちで秋を心で味わう「お月見の会」を昨日と本日に分かれて、4つのグループにちゅうりっぷ組、こすもす組も4回に分かれて一緒に参加して行いました。

十五夜（中秋の名月）とはいつでしょうか。旧暦では秋を7月～9月としており、旧暦7月を「初秋」、旧暦8月を「仲秋」、旧暦9月を「晩秋」と区分しました。「仲秋」が旧暦8月の全体を指すことに対し、「中秋」は秋全体の中日を意味し、旧暦8月15日のみを指します。現代では旧暦と暦の数え方が異なるため、年によって十五夜の日が異なりますが、およそ9月の中旬～10月上旬に訪れます。農作業に従事する人々は欠けたところのない満月を豊穰の象徴とし、秋の収穫の感謝を込めて芋や豆などの収穫物を月に供えました。

しかし、稲穂はまだ穂が実る前の時期であることから、**穂の出たすすきを稲穂に見立てて飾った**と言われていました。月見団子や芋類の他には枝豆や栗、果物などの秋の収穫物や水・酒などもお月見のお供え物として飾ります。お供えした食べ物はお月見が終わってから食べたりします。**お供え物を体に取り入れることにより、健康や幸せを得ることができると**考えられています。植物では「すすき」に加え、ワレモコウやオミナエシなどの秋の七草も飾ります。その他、コスモスなど季節の花を添えて、華やかに飾ることも良いでしょう。空気が澄んで1年で最も月が美しく見える日が十五夜（中秋の名月）です。どれだけ時代が変わっても月の美しさだけは変わりません。



『昼間の太陽は全ての命あるものに生きる力と他のために良い働きをしていくパワーを授けてくれます。夜のお月さまは潤いと安らぎを通して感謝や他を思いやる心を授けてくれます。』「こどものもり」の「お月見の会」では、例年、「県営みどりの丘降園」に家族そろって一同に夕方集まり、「お月さま」を見ながら、次代を担う子どもたちに「命をいただき、育てていただいていることへの感謝と他のために働く心」を感じていかれることを願って開催されてきました。



今年も昨年に続き、家族そろっての「お月見の会」を開くことはできませんでしたが、2日間かけて4グループに分かれて順にちょっと薄暗くした太陽の部屋の集まり

- ・プロジェクターを使って、本物の「お月さま」を映しました。
- ・「お月見団子」「園の畑で収穫した野菜と上ジュース」「園で育ったススキ」を年長児の代表と圭恵先生により、お供えしてお祝いしました。
- ・園長先生から「お月見の話」を聞きました。
- ・最後に月を見ながら平野先生と針ヶ谷先生のピアノ演奏『星に願いを』を聞きました。

・昼間に薄暗くした室内でのお月見の会となりましたが、クッキングコーナーではこの日の為に子どもたちと「お月見団子」を作り、園の畑で育てた野菜を用意し、園内やお寺の境内に大きく育ったススキを飾りました。

とてもステキなひとときを過ごすことができました。

- ・ランチには昨日は「お月見ランチ」、本日はかぼちゃを月に見立てての「お月見団子」をランチのデザートとしていただきました。



昨日の帰りには園で育った「ススキ」を子どもたちが1本ずつ切り、持ち帰りました。ご家庭でもきっと「お月見」を家族そろってお祝いして下さったことでしょう。

園庭からも「きれいな「まん丸のお月様」が見え、温かい気持ちになりました。皆さんはいかがでしたでしょうか！！

